

教科名	保健体育	単位数	1 単位	担当者	松尾 諭・竹内雄史・源田裕久
科目名	保 健	年次	2 年次		
使用教科書 副教材等	「現代高等保健体育」 大修館書店 「現代高等保健体育ノート」 大修館書店				
1 学習の到達目標（育成すべき資質・能力）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。</li> <li>・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。</li> <li>・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。</li> </ul>					
2 学習の評価（評価基準と評価方法）					
観点	a. 知識及び技能	b. 思考力,判断力,表現力等	c. 主体的に学習に取り組む態度		
観 点 の 趣 旨	・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。		
主 た る 評 価 方 法	行動の観察 定期考査 ワークシート	行動の観察 定期考査 ワークシート リフレクションシート 生徒の相互評価	行動の観察 ワークシート 生徒の自己評価		
評 価 全 体 に 占 め る 割 合	40%	30%	30%		
3 学習の目標と振り返り					
	《目 標》 ～何ができるようになりたいか具体的に～		《振り返り》 ～学習の振り返りと今後の課題～		
前 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		
後 期			【達成できた・一部達成できた・達成できなかった】		

4 学習の内容 4単元「健康を支える環境づくり」						
学期	学習内容 (単元)	主な評価の観点			単元(題材)の評価規準	評価方法
		a	b	c		
前期 ・ 後期	3単元「生涯を通じる健康」				<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解できる。 (a, b, c)</li> <li>労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理、及び安全管理をする必要があることを理解できる。 (a, b, c)</li> <li>人間の生活や産業活動は自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあり、それらを防ぐには汚染の防止及び改善の対策とる必要があることを理解できる。 (a, b, c)</li> </ul>	行動の観察 定期考査 ワークシート リフレクションシート 生徒の自己評価 生徒の相互評価
	01. ライフステージと健康 ライフステージと健康の関連について説明できる。	◎	○	○		
	02. 思春期と健康 思春期の体と心の健康について説明できる。	◎	○	○		
	03. 性意識と性行動の選択 性意識の男女差について例をあげて説明できる。	○	◎	○		
	04. 妊娠・出産と健康 妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。	○	◎	○		
	05. 避妊法と人工妊娠中絶 家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。	◎	○	○		
	06. 結婚生活と健康 心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。	◎	○	○		
	07. 中高年期と健康 加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。	○	◎	○		
	08. 働くことと健康 働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。	○	◎	○		
	09. 労働災害と健康 労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。	◎	○	○		
10. 健康的な職業生活 職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。	◎	○	○			
4単元「健康を支える環境づくり」						
01. 大気汚染と健康 大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。	◎	○	○			
02. 水質汚濁、土壌汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。	◎	○	○			

<p>03. 環境と健康にかかわる対策 環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。</p>	◎	○	○	<p>・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であり、食品衛生活動は食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解できる。 (a, b, c)</p> <p>・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用する。また、我が国や世界では、健康課題に対して様々な保健活動や対策が行われていることが理解できる。 (a, b, c)</p>
<p>04. ごみの処理と上下水道の整備 ごみの処理の現状やその課題について説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>05. 食品の安全性 食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>06. 食品衛生にかかわる活動 食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる</p>	◎	○	○	
<p>07. 保健サービスとその活用 保健行政の役割について例をあげて説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>08. 医療サービスとその活用 わが国における医療保険のしくみについて説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>09. 医薬品の制度とその活用 医薬品の正しい使用方法について説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>10. さまざまな保健活動や社会的対策 国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。</p>	◎	○	○	
<p>11. 健康に関する環境づくりと社会参加 健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。</p>	◎	○	○	